

IMF 春季世界経済見通しから

国際通貨基金(IMF)は4月11日に2011年と2012年の世界経済見通しを発表した。

1. 世界経済見通し

IMFは、世界経済成長率について2011年を4.4%、2012年を4.5%と予測している。各国の財政支援策は財政再建に移行したが、民間需要がその役割を引き継ぎ、2010年の5.0%から勢いは鈍るものの、総じて予想通りの回復を続けると見ている。

一方、下振れリスクとしては、①先進国の失業率が依然として高水準にあること、②先進国のバランスシートが依然として脆弱で不動産市場が停滞していること、③石油をはじめとする商品価格が高騰していること、④中東・北アフリカなどの不透明な地勢学的情勢、⑤新興国の資産市場の景気過熱、⑥日本の大震災の影響などを挙げている。

2. 先進国経済

先進国の成長率は、2011年を2.4%、2012年を2.6%と予測している。中でも米国は、2011年を2.8%、2012年を2.9%と底堅く推移すると見込んでいるが、一段の回復のためには連邦準備理事会(FRB)による緩和的金融政策が維持される必要があるとの見方をしている。

一方、ユーロ圏の成長率見通しは、一部の国の債務問題など不透明感が残り、ばらつきが見られるものの、情勢は改善し、2011年を1.6%、2012年を1.8%としている。国別では、ドイツが2011年を2.5%、2012年を2.1%、フランスが2011年を1.6%、2012年を1.8%、スペインが2011年を0.8%、2012年を1.6%と予測。また、英国が2011年を1.7%、2012年を2.3%と予測している。

日本については、大震災の影響は、不透明感が強く残るものの、マクロ経済に与える影響は小さいと見ている。日本の見通しは、2010年の3.9%から2011年の1.4%と急激に落ち込むが、2012年は復興需要などを考慮して2.1%と予測している。

表 IMFの世界経済見通し(実質成長率、%)

	2010	2011	2012
世界	5.0	4.4	4.5
先進国	3.0	2.4	2.6
米国	2.8	2.8	2.9
ユーロ圏	1.7	1.6	1.8
ドイツ	3.5	2.5	2.1
フランス	1.5	1.6	1.8
スペイン	▲0.1	0.8	1.6
英国	1.3	1.7	2.3
日本	3.9	1.4	2.1
新興市場・途上国	7.3	6.5	6.5
ブラジル	7.5	4.5	4.1
ロシア	4.0	4.8	4.5
インド	10.4	8.2	7.8
中国	10.3	9.6	9.5

出所:IMF

3. 新興市場国および途上国

新興市場国および途上国は、2011年、2012年ともに先進国より遥かに高い6.5%と見込んでいる。主要な新興国のブラジル、ロシア、インド、中国(BRICs)をみると、ロシアが2010年の4.0%から2011年を4.8%、2012年を4.5%と予測しているのに対し、その他の3カ国は勢いが鈍ると見ている。ブラジルは2010年の7.5%から2011年を4.5%、2012年を4.1%、インドは2010年の10.4%から2011年を8.2%、2012年を7.8%、中国は2010年の10.3%から2011年を9.6%、2012年を9.5%と見込んでいる。

一方、「多くの新興市場国では、現在ブームとも言える状況が、景気過熱に発展しないように万全を期すことが求められ、各国の景気循環状況および対外環境により、各々の適切な措置は異なってくるが、多くの新興市場国はマクロ経済政策の引き締めを行わなければならない」とし、世界経済の回復をより強固な基盤に乗るための政策の重要性を指摘している。

なお、4月28日には、アジア太平洋地域経済見通しを発表しており、同地域の成長は、2011年・2012年共に平均で約7%に達するとし、今後2年間でインドは8%、中国は9.5%拡大し、これら両国が成長を先導すると予測している。また、日本政府の大震災に対する対応を評価し、サプライ・チェーンを通じた影響は限定的だと見ている。

(調査グループ 関谷裕介)